

第4章「基礎戦略3」

資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

一次産業を基幹産業とする当地域にあっては、「安心・安全」を求める消費者ニーズの高まりを好機と捉え、農林水産物の付加価値向上と販売力強化の視点に立った生産・流通体制の構築など一次産業の振興に取り組みます。

また、地域の特性を生かせる企業の誘致、既に立地している企業へのフォローアップなど、より一層の雇用の確保を促進するとともに、起業支援や中心市街地の活性化など商工業等の振興に取り組みます。

【指標の状況】

◆:新型コロナウイルス感染症の影響が大きい指標

指標名	目標の方向	基準値(H26)	目標値(R2)	実績値(R2)	達成率
第1節 農業の振興					
新規就農者数(人)	↑	6	7	6	86%
農産物系統販売額(百万円)◆	↑	2,641.0	2,687.0	2,276.7	85%
農家1戸当たり乳牛飼養頭数(頭)	→	55	59	66	112%
農家1戸当たり肉牛飼養頭数(頭)	→	21	22	34	155%
産直施設の販売額(千円)	↑	442,832	447,200	403,516	90%
ベゴツアー参加者数(人)	↑	48	88	49	56%
多面的機能支払交付金事業取組農地面積(ha)	↑	293.4	320.0	303.8	95%
第2節 林業の振興					
未利用材活用量(m ³)	↑	0	8,000	9,647	121%
木炭生産量(t)	↑	600	690	499	72%
原木乾しいたけ生産量(kg)	↑	7,921	9,109	5,210	57%
第3節 水産業の振興					
共販品取扱実績(千円)◆	↑	349,179	360,000	176,309	49%
久慈港水揚げ量(t)	↑	10,560	12,000	7,017	58%
さけ種苗放流数(千尾)	↑	27,500	30,000	23,473	78%
産業別就業人口に対する漁業就業者数の割合(%)	→	2.15	2.05	2.07	101%
第4節 商工業等の振興					
久慈ふるさと創造基金利用件数(件)	↑	0	1	1	100%
起業・立地奨励補助金利用件数(件)	→	2	1	0	0%
やませ土風館・駅前複合施設の利用者数(人)◆	↑	773,659	869,000	725,237	83%
久慈管内新規高卒者の管内就職率(%)	↑	34.0	39.2	38.1	97%
研究機関との連携による新商品・新技術の開発(件)	↑	0	1	0	0%
第5節 観光の振興					
観光客アンケートの満足度(%) ※1	↑	—	60	※	—
秋まつり観光客数(人)◆	↑	109,000	130,000	未実施	—
案内看板の設置数(基) ※再掲	↑	2	17	22	129%

※1観光客アンケートの満足度については、三陸DMOセンターのマーケティング調査結果によるがH29以降は三陸沿岸地域全体のデータのみ公表されていることから、実績値を未掲載とした。

目標の方向が「↑」の場合：実績値が大きいほど良好な結果であり、達成率は大きくなる。
 目標の方向が「↓」の場合：実績値が小さいほど良好な結果であり、達成率は大きくなる。

【総合評価】

【第1節 農業の振興】

農業の振興については、就農相談会や新規農業者の資金支援等を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、相談会の参加率が低下したため、新規就農者は6人となり、目標を下回りました。基幹作物の振興については、菌床シイタケの生産施設や雨よけほうれんそう用の機械導入を支援し、経営基盤の強化を図ったほか、新作目開発実証事業を活用し、ズッキーニの栽培実証を行いました。

また、園芸・畜産団体に対して、機械・施設等の整備支援を実施し、農家1戸当たりの乳牛・肉牛飼育頭数も目標を達成しました。販売額は、前年度と比較し、ホルスタインが増加、生乳は横ばいだったのに対し、短角繁殖牛、和牛子牛は新型コロナウイルス感染症の影響により、減少しました。

市内の飼養農家は減少傾向にあることから、今後も担い手の確保、生産基盤の強化、規模拡大及び効率化に向けた対策を関係機関・団体と連携して取り組みます。

【第2節 林業の振興】

森林の管理については、二酸化炭素排出抑制や災害防止の観点からも適切に管理する必要があるため、森林経営管理制度に基づく意向調査準備、データ等の整理を実施しました。市有林においても、適正な管理により財産価値を高めることが、将来的な歳入確保につながることから、今後も継続して整備を推進します。未利用材の活用量は、市内で木質バイオマス熱供給施設が稼働していることから、増加傾向にあります。更なる使用拡大に向け、地域木材の有効活用と地産地消の推進に取り組みます。

木炭生産量は、499tとやや減少傾向で推移しています。引き続き、G I 認証によるブランド力を強みに、新たな販路拡大に努め、生産施設への支援等に取り組みます。

【第3節 水産業の振興】

久慈市営魚市場の水揚実績は、数量で7,017トン、前年度比98.7%、金額は13億2,786万円で、前年度比97.5%となっており、数量、金額ともに減少しました。理由としては、当市場の主力魚種である秋サケやスルメイカの不漁が重なったことが挙げられます。

水揚げ実績は、漁場環境や外来船の入港状況にも影響を受けることから、今後も久慈市漁業協同組合等と連携し、関係漁協や船主、関係団体を訪問する漁船誘致活動やギンザケ養殖を推進するなど、各種取組の体制強化に努めます。

担い手育成対策については、各種取組みにより令和2年度は、新規漁業就業者を2名確保しました。久慈市漁業協同組合の組合員数は減少傾向にあり、担い手の育成が重要な課題となっていることから、新規漁業就業を希望している方を把握するため実態調査を実施し、候補者リストを作成したほか、久慈市の漁業の特徴や漁師になるための方法を紹介した「くじ漁師ガイドブック」の作成など、新規漁業就業者の確保・育成のための具体的な取組を実施しました。今後も、久慈市漁業協同組合と連携し、関係機関・団体と一体となって、担い手確保対策に努めます。

【第4節 商工業等の振興】

商工振興については、起業支援として実施した個別相談件数は3件であり、うち1件が創業となりました。引き続き、商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、きめ細やかなフォローアップに取り組みます。雇用の場の創出については、市内事業者による新事業展開や販路開拓等による地域経済の拡大が不可欠であることから、フォローアップ訪問を行い、企業課題の掘り起し、各種補助金等への申請支援、販路拡大に係るマッチング支援等を行いました。

中心市街地の活性化については、令和2年7月に駅前複合施設がオープンしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2施設の利用者は725,237人と目標を下回りました。今後は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しながら、やませ土風館、駅前複合施設、商店会等と連携したイベント事業等を実施し、中心市街地活性化に向けて取り組みます。

【第5節 観光の振興】

観光施設の維持管理を行うとともに、新山根温泉べっぴんの湯の再開に向け源泉の掘削業務、施設改修設計業務を行いました。また、観光情報の発信については、テレビや雑誌、SNS等の多様なメディアによる情報発信に努めたほか、パンフレットを若年層に訴求するデザインに変更しました。

ロケツーリズムについては、ロケ受け入れ件数が52件であったほか、新たな映画ロケ誘致に成功し、例年以上の受け入れ実績となりました。令和3年度の映画公開に併せ、積極的なプロモーション活動を行います。

観光客数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく減少しました。今後は、感染症の流行状況を勘案しながら、新たな観光スタイルや受入様式等によるイベントや各種観光施策を、関係者と連携して取り組みます。

第4章 基礎戦略3

資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

第1節 農業の振興

【令和2年度の取組】

①担い手農家の育成・確保（農政課）

●いわて地域農業マスタープラン実践支援事業

認定農業者、青年農業者、集落営農組織、中心経営体等の育成・確保や、園芸・畜産等の産地拡大の取り組みを加速するため、園芸4団体、畜産4団体の機械・施設等の生産基盤の整備を支援しました。

●新規就農者育成確保対策事業

新規就農者確保のために、就農相談会を実施しました。

●農業次世代人材投資事業

国の新規就農者の支援策である農業次世代人材投資事業により、就農直後の負担を軽減させるための資金を交付し、5経営体の経営支援を行いました。

②基幹作目等の振興（農政課）

地域農業マスタープランに基づき、いわて地域農業マスタープラン実践支援事業を活用し、基幹作目である菌床しいたけ栽培用ハウス3棟と付帯設備一式、ほうれんそう栽培用のプラソイラーや管理機などの導入を支援し、経営基盤の強化を図りました。

また、新作目開発実証事業を活用し、当地域の気象条件を生かした高収益作物の導入に向けてズッキーニの栽培実証を行ったところ、市内3戸17a（前年比増減なし）のほ場で生産された2,072kg、518ケース（前年度比1,992kg、498ケース減少）が出荷されました。

③畜産業の産地化の推進（農政課・産業建設課）

●いわて地域農業マスタープラン実践支援事業

認定農業者、青年農業者、集落営農組織、中心経営体等の育成・確保や、畜産等の産地拡大の取り組みを加速するため、畜産4団体の機械・施設等の生産基盤の整備を支援しました。

●畜産振興総合対策推進指導事業

優良乳用雌牛の能力に応じた選抜確保と効率的な飼養管理のため、酪農家9戸、乳用牛406頭に対して、牛群の検定と乳成分の測定を実施し、改良による乳量の増量と乳質の改善向上を図るため、検査費の補助を行いました。

●岩手県ブロイラー価格安定対策事業

県内産のブロイラー価格が、東京荷受市場における一定の価格を下回った場合に、生産者に対し補填金を交付することにより、生産者に及ぼす影響の緩和を図るため支援しました。

●家畜導入事業資金供給事業

肉用牛の家畜購入経費への助成で、事業実施主体（JA）からの申請に基づき、必要額を市が県の補助を受け基金造成し、基金から取り崩して7頭分交付しました。

④地産地消の推進（農政課）

●地産地消ふれあい給食事業

市内小中学校を対象に、生産者との交流と地産地消について学ぶ「地産地消ふれあい給食（鮭、短角牛、ほうれんそう、しいたけ（各食材×3回）計12回）」を実施しました。また、生産者を講師とした出前講座を、食材毎に8校で実施しました。

●食農教育・地産地消推進事業

久慈管内4市町村及び県、農協等で構成する久慈地方農業農村活性化推進協議会の農村活性化部会において、市内産地直売施設に対する県北地域6次産業化課題解決応援事業として、産地直売所の集荷システム構築に取り組む計画でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が見送られました。

⑤都市との交流の推進（産業建設課）

首都圏の消費者と短角牛生産者は、昭和58年より、顔の見える交流を重ね令和2年度で、38回目を迎えました。直接、生産現場を見てもらうことで安心・安全・信頼度を向上させる取り組みを実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの開催を試みて、販路・消費拡大に繋げ、生産者の生産意欲向上のため取り組みました。

⑥農業環境整備の促進（農政課）

多面的機能支払交付金事業の新規取組要望地区において、説明会を行いました。

【施策の評価】

①担い手農家の育成・確保（農政課）

令和2年度の新規就農者は6人で、目標の7人を下回りました。新型コロナウイルス感染症の影響で、新規就農相談会の参加率が低下したため、オンラインでの就農相談等を活用し、就農を希望する方に、積極的に就農相談していただけるような環境を提供します。

園芸及び畜産の農産物系統販売額は22億7,672万円、前年度比92.1%と減少しており、目標数値26億8,700万円を15.3%下回っています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた中食・外食需要の落ち込みにより畜産物や主食用米の価格が低迷したことから、畜産物販売実績は14億2,476万円、前年度比89.4%と減少しました。園芸・米穀販売実績は8億5,195万円、前年度比97.2%と減少しています。

菌床シイタケは、栽培設備の整った施設による規模拡大により品質が向上し、販売額は昨年比101.0%（出荷量は昨年比98.1%）となりましたが、小売店の販売が好調だった一方、下位等級の単価安や中国産菌床の市場への流通量の増加など、販売に苦戦する状況となりました。ホウレンソウは、夏期は高温や日照不足といった不安定な天候が続き、出荷量が大きく落ち込むとともに、秋以降は他産地の豊作基調による大幅な単価安の影響を受け、販売額は前年度比88.9%（出荷量は87.3%）となりました。

②基幹作目等の振興（農政課）

菌床シイタケは、大規模経営体による生産が本格化し、系統販売額の増加が期待できます。雨よけハウレンソウは高齢化による離農や天候の影響から出荷量が減少傾向にあるため、省力化や規模拡大に対して引き続き事業導入による支援を継続するとともに、高単価である夏期の出荷量の増加に向けて関係機関とともに高温対策の実証事業などに取り組みます。

ズッキーニは、栽培技術が確立し、単収が向上していますが、栽培面積が横ばいであることから、栽培管理が比較的容易な利点を生かし、新規就農者等への普及を進めます。また、有望な新規作目としてブロッコリーについても苗や資材に支援を行い、栽培技術の向上など検証を行います。

③畜産物の産地化の推進（農政課・産業建設課）

畜産物の系統販売実績は15億9,443万円、前年度比106.4%と増加しています。販売額（JA出荷）は、ホルスタインが前年度比126.8%と増加、生乳は前年度比99.9%と昨年並みだったのに対し、新型コロナウイルス感染拡大の影響による需要及び単価の落ち込みなどにより、短角繁殖牛が前年度比77.8%、和牛子牛が昨年比73.4%と減少しました。

市内全体での飼養農家数が減少傾向にあることから、今後も担い手の確保、生産基盤の強化、規模拡大及び作業効率の向上に向けた対策を関係機関・団体と連携し推進します。

④地産地消の推進（農政課）

●地産地消ふれあい給食事業

「地産地消ふれあい給食の日」を設け、市内全小中学校を対象に、久慈市産の旬の食材4品目をメインとした給食を提供するとともに、生産者を講師とした出前講座と食生活改善推進員による食育の勉強会を実施したことにより、農林水産業への理解と食育の推進が図られました。今後も、地元農林水産業への理解と食育の推進が図られるよう、継続的に実施します。

●食農教育・地産地消推進事業

産地直売施設販売額は4億352万円、前年度比95.9%と減少しました。市内産地直売施設に対する運営強化のための取組みは、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が見送られましたが、今後も産直施設の活性化のため、継続的に支援します。

⑤都市との交流の推進（産業建設課）

オンラインでの初開催となるベコツアー参加者数は、49人となり、新型コロナウイルス感染症の影響により、リアルツアーは中止となりましたが、日ごろ産地に来ることができなかった消費者の方から、初参加いただき、新たな視点からも、交流・関係人口の拡大に向けて取り組みができました。オンラインツアーを実施する場合は、受け入れ側のおもてなし方法などを見直し、関係機関との連携を強化します。

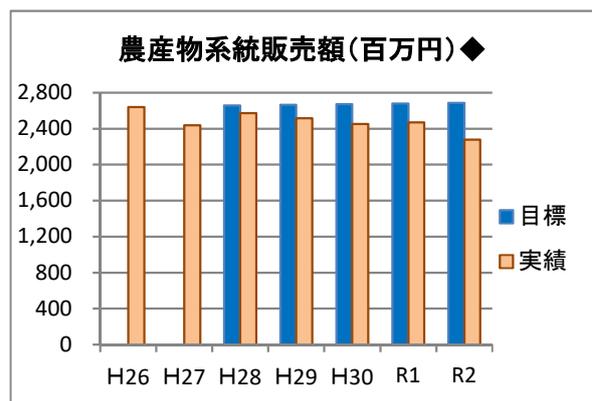
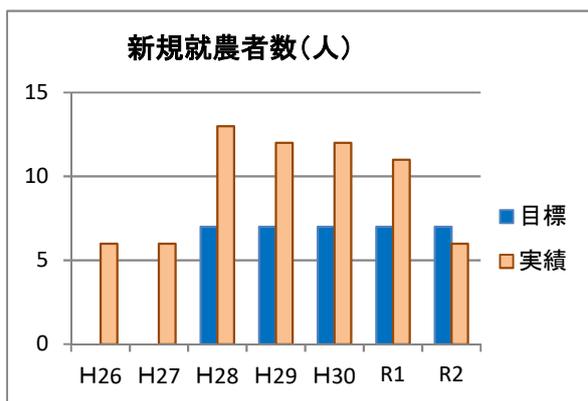
⑥農業環境整備の促進（農政課）

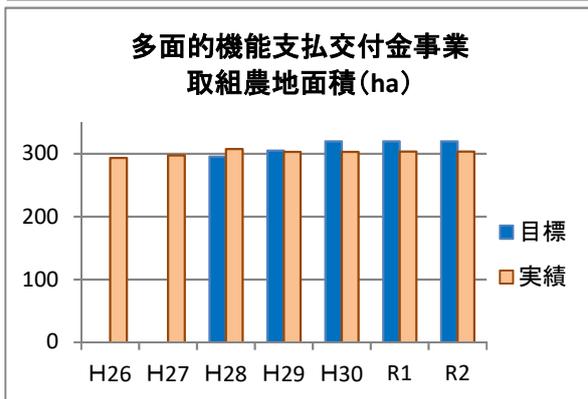
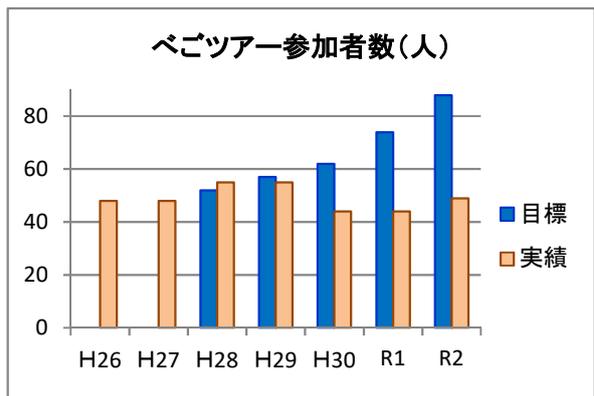
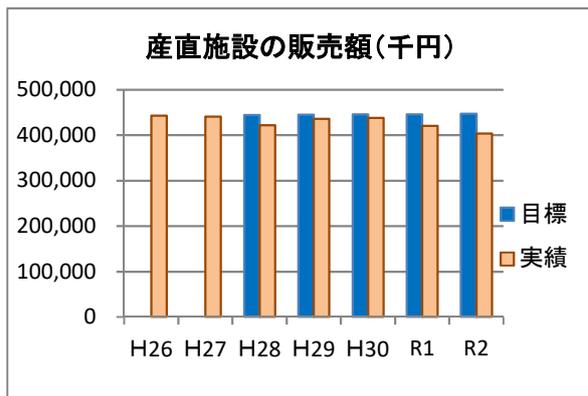
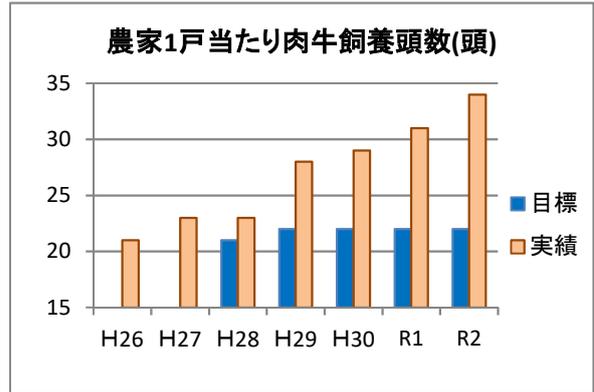
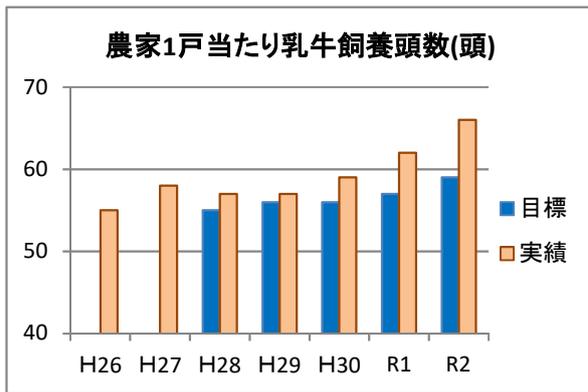
多面的機能支払交付金事業取組農地面積は、前年度からの増減はありませんが、目標を下回っています。本事業は地域住民の活力により遊休農地の解消、水路及び農道の整備に効果的であると認識しており、引き続き農業環境整備に取り組みます。

【指標の状況（詳細）】

◆：新型コロナウイルス感染症の影響が大きい指標

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	新規就農者数（人）		6	目標	7	7	7	7
実績	6	13		12	12	11	6	
達成率		186%		171%	171%	157%	86%	
農産物系統販売額 （百万円）◆	2,641.0	目標	2,656.6	2,664.4	2,672.2	2,680.0	2,687.0	
		実績	2,438.3	2,572.9	2,514.6	2,451.7	2,471.2	2,276.7
		達成率	97%	94%	92%	92%	85%	
農家1戸当たり乳牛飼養頭 数（頭）	55	目標	55	56	56	57	59	
		実績	58	57	57	59	62	66
		達成率	104%	102%	105%	109%	112%	
農家1戸当たり肉牛飼養頭 数（頭）	21	目標	21	22	22	22	22	
		実績	23	23	28	29	31	34
		達成率	110%	127%	132%	141%	155%	
産直施設の販売額（千 円）	442,832	目標	444,300	445,000	445,700	446,000	447,200	
		実績	440,805	421,811	435,966	437,935	420,666	403,516
		達成率	95%	98%	98%	94%	90%	
ベゴツアー参加者数 （人）	48	目標	52	57	62	74	88	
		実績	48	55	55	44	44	49
		達成率	106%	96%	71%	59%	56%	
多面的機能支払交付金事 業取組農地面積（ha）	293.4	目標	295.7	305.0	320.0	320.0	320.0	
		実績	297.5	307.5	303.3	303.3	303.8	303.8
		達成率	104%	99%	95%	95%	95%	





第4章 基礎戦略3

資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

第2節 林業の振興

【令和2年度の取組】

①林業基盤の整備（林業水産課）

森林経営計画に基づき、市有林の立木売却や伐採跡地における造林及び下刈りを実施しました。また、森林経営管理制度が施行され未整備の民有林の管理について意向調査を行う必要があることから、意向確認のためのデータ整理、レーザ計測を実施しました。

②日本一の炭の里づくりの推進（林業水産課）

日本一の炭の里づくり構想推進協議会において、「久慈地方物産展&地産地消フェア」等のイベントでのPR活動や木炭の販路拡大に関する打ち合わせ等を行いました。また、木炭生産施設整備事業では、半自動梱包機1台購入の補助を行いました。

③特用林産物生産の振興（林業水産課）

久慈市しいたけ生産推進協議会にて、しいたけ栽培技術等に係る研修参加を支援しました。特用林産新規参入支援事業では、原木しいたけ用ほだ木の造成（150m³）に要する経費の補助を行いました。

【施策の評価】

①林業基盤の整備（林業水産課）

森林の管理については、森林経営管理制度に基づく意向調査準備、施業実施の基礎になるデータ等の整理を実施しました。二酸化炭素排出抑制や災害防止の観点からも森林を適正に管理する必要があるため、森林経営管理制度による事業を推進します。また、市有林においても、適正な管理により財産価値を高めることにより、将来的な歳入確保につながることから、今後も継続して整備を推進します。

未利用材の活用量は、市内で木質バイオマス熱供給施設が稼働していることから、増加傾向にあります。さらなる木質バイオマス燃料の使用拡大に向け、地域木材の有効活用と地産地消の推進に取り組みます。

②日本一の炭の里づくりの推進（林業水産課）

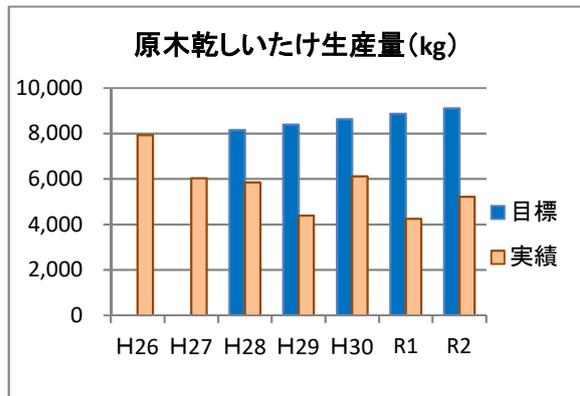
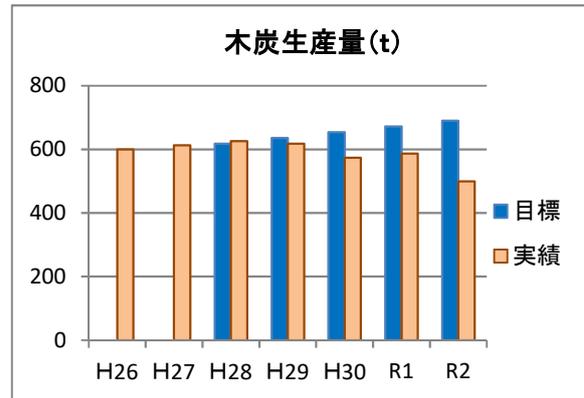
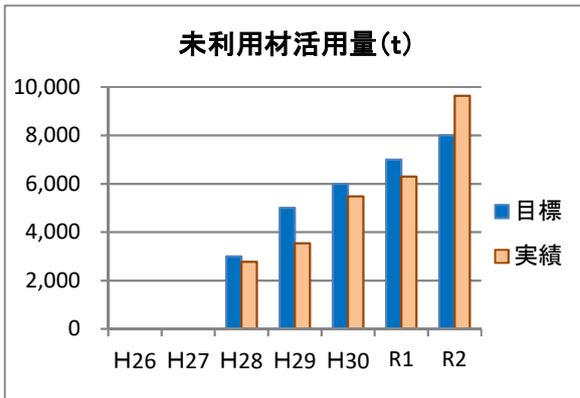
木炭生産量はやや減少傾向で推移しています。引き続き、G I 認証によるブランド力を強みとして新たな販路拡大に努め、生産施設の支援等を行います。

③特用林産物生産の振興（林業水産課）

原木乾しいたけの生産量は、5,210kgと目標を下回っております。当地方の乾しいたけは全国でも高い評価を得ていることから、今後も生産者に対する支援を行います。

【指標の状況（詳細）】

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
未利用材活用量（m ³ ）	0	目標		3,000	5,000	6,000	7,000	8,000
		実績	0	2,772	3,543	5,487	6,295	9,647
		達成率		92%	71%	91%	90%	121%
木炭生産量（t）	600	目標		618	636	654	672	690
		実績	613	626	618	574	587	499
		達成率		101%	97%	88%	87%	72%
原木乾しいたけ生産量 (kg)	7,921	目標		8,158	8,396	8,633	8,871	9,109
		実績	6,030	5,846	4,390	6,110	4,249	5,210
		達成率		72%	52%	71%	48%	57%



第4章 基礎戦略3

資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

第3節 水産業の振興

【令和2年度の取組】

①つくり育てる漁業の推進（林業水産課）

水産物の安定的な供給を維持するため、ウニ、アワビ、サケ等の種苗・稚魚の放流を実施してきました。

また、つくり育てる漁業の推進策として、ナマコの増殖試験や湾内の環境調査など、計画的かつ安定的な生産のため増養殖に関する試験を行いました。

②漁港漁村の整備（林業水産課・上下水道整備課※漁業集落排水）

●漁港施設基盤整備事業

水産物の安定供給の基盤となる漁港施設の整備を計画的に進めるため、小袖漁港の北防波堤改良工事を継続して実施しました。また、漁港の機能保全のため、小袖漁港の橋梁架け替え工事を実施しました。

また、施設の長寿命化を図りつつ、保全対策のコストの平準化を図るため、侍浜漁港機能保全計画及び久慈湊・小袖漁港海岸保全施設長寿命化計画を策定しました。

●漁業集落環境整備事業

漁村の生活環境改善のため、白前・本波地区は集落道と集落排水工事、大尻地区は集落排水工事を継続して実施しました。

③内水面漁業の振興（林業水産課）

河川における淡水魚族の保護と水産資源の確保を図るため、淡水魚であるアユ、ヤマメ及びイワナの放流事業を行いました。

④担い手育成対策（林業水産課）

国の支援策である「新規漁業就業者総合支援事業」を実施しました。

また、久慈市漁業就業者育成協議会により、新規漁業就業を希望している方を把握するため実態調査を実施し、候補者リストを作成したほか、久慈市の漁業の特徴や漁師になるための方法を紹介した「くじ漁師ガイドブック」の作成など、新規漁業就業者の確保・育成のための具体的な取組を実施しました。

⑤水産物の販売力の向上（林業水産課）

消費者から選ばれる産地となるよう高度衛生管理手法に基づき、産地関係者のための衛生品質管理講習会を実施するなど、魚市場における安心・安全な食材の供給体制に努めました。また、久慈市漁業協同組合等の関係機関と連携し、水揚げ強化対策としての巻き網船の誘致活動の実施や「ギンザケ」及び「ナマコ」など、久慈の水産ブランドの確立に向け取り組みました。

【施策の評価】

久慈市営魚市場の水揚実績は、数量で7,017トン、前年度比98.7%、金額は13億2,786万円で、前年度比97.5%となっており、数量、金額ともに減少しました。理由としては、当市場の主力魚種である秋サケやスルメイカの不漁が重なったことが挙げられます。水揚げ実績は、漁場環境や外来船の入港状況にも影響を受けることから、今後も久慈市漁業協同組合等と連携し、関係漁協や船主、関係団体を訪問する漁船誘致活動やギンザケ養殖を推進するなど、各種取組の体制強化に努めます。

①つくり育てる漁業の推進（林業水産課）

サケ、ウニ、アワビの稚魚・種苗放流実績は、東日本大震災前と比較し、アワビ以外は震災前を下回る規模で推移しており、ウニの種苗放流、アワビ種苗放流の縮小傾向に加え、近年ではサケの不漁により稚魚の数量を確保できず、サケの稚魚放流も縮小傾向になっています。

ただし、ウニ種苗放流数については、磯焼け防止の観点から資源量に見合った数量に調整した上で取組を実施しています。

稚魚、稚貝の種苗の放流については、資源の維持確保のみならず、漁家の経営安定、担い手育成に重要な要素であり、今後も毎年一定数量の放流の継続が必要です。

②漁港漁村の整備（林業水産課・上下水道整備課）

●漁港施設基盤整備事業

小袖漁港の北防波堤嵩上げや橋梁の架け替えを実施したところですが、水産物の安定供給の基盤となる漁港施設の整備や機能保全のため、今後も継続して取り組みます。

●漁業集落環境整備事業

白前・本波地区は集落道と集落排水工事、大尻地区は集落排水工事を継続して実施しておりますが、まだ完了していないことから、今後も漁村の生活環境改善のため、継続して取り組みます。

③内水面漁業の振興（林業水産課）

淡水魚の放流事業により、河川における淡水魚族の保護と資源確保を行うことで河川環境の維持・向上が図られるため、今後も継続して放流事業を実施することが必要です。

④担い手育成対策（林業水産課）

各種取組により令和2年度は2名を新規漁業就業者として確保しました。

しかし、漁業者（久慈市漁業協同組合の組合員）の減少が続いていることから、今後も、同組合及び関係機関・団体と一体となって、担い手の確保対策に努める必要があります。

⑤水産物の販売力の向上（林業水産課）

令和2年度の共販品取扱実績は、1億7,631万円で前年度比42%の減となりました。これは、コロナ禍の影響による主力のアワビ単価の下落と、磯焼けの進行による水揚げ数量の減少によるものです。久慈港水揚げ量も低調であることから、販路開拓、拡大により安定した販売力向上につなげる活動の支援に努めます。

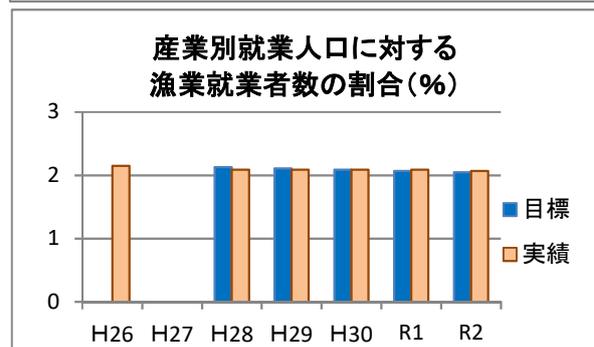
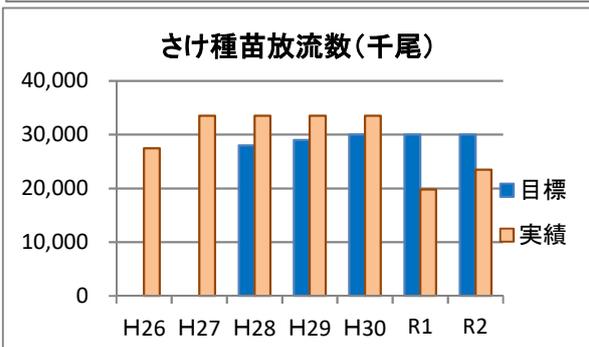
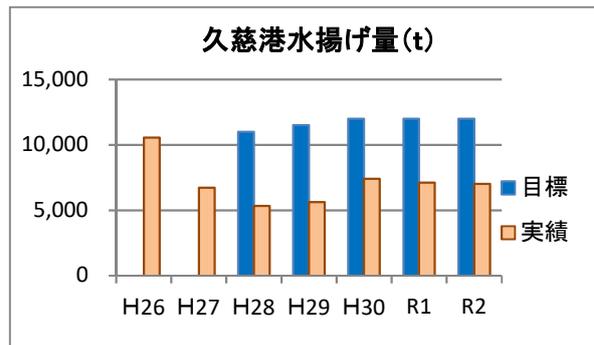
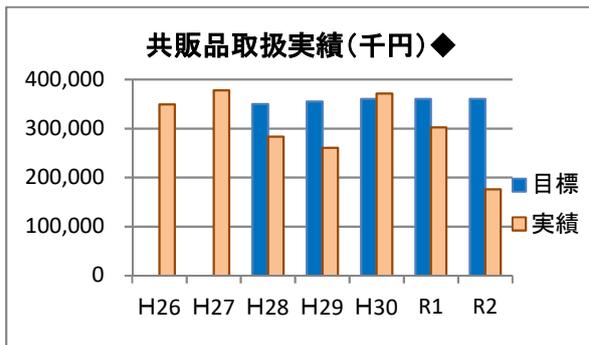
「ギンザケ」及び「ナマコ」については、養殖及び増殖に向けて実証事業中であり、水揚げに対する影響は大きくないものの、現時点における結果は良好であることから、引き続き久慈の水産ブランドの確立に向け取り組む必要があります。

また、消費者から選ばれる産地化の取組については、産地関係者に対する衛生品質管理講習会を実施していますが、市営魚市場における県版HACCPの認定が3年連続（H30～R2）で外れていることから、引き続き魚市場における安心・安全な食材の供給体制を強化する必要があります。

【指標の状況（詳細）】

◆：新型コロナウイルス感染症の影響が大きい指標

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	共販品取扱実績(千円)◆		349,179	目標	350,000	355,000	360,000	360,000
実績	377,926	283,116		260,438	371,016	302,452	176,309	
達成率		81%		73%	103%	84%	49%	
久慈港水揚げ量（t）	10,560	目標	11,000	11,500	12,000	12,000	12,000	12,000
		実績	6,714	5,329	5,628	7,403	7,113	7,017
		達成率		48%	49%	62%	59%	58%
さけ種苗放流数（千尾）	27,500	目標	28,000	29,000	30,000	30,000	30,000	30,000
		実績	33,500	33,500	33,500	33,500	19,800	23,473
		達成率		120%	116%	112%	66%	78%
産業別就業人口に対する 漁業就業者数の割合 （%）	2.15	目標	2.13	2.11	2.09	2.07	2.07	2.05
		実績	—	2.09	2.09	2.09	2.09	2.07
		達成率		98%	99%	100%	101%	101%



第4章 基礎戦略3

資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

第4節 商工業の振興

【令和2年度の取組】

①起業家に対する支援（企業立地港湾課）

創業希望者に対しては、「久慈市創業支援事業計画」に基づき、商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、個別相談等きめ細やかなフォローアップに努めました。

また、起業家等へ貸付する「久慈・ふるさと創造基金」の運営費として、久慈商工会議所に対して運営費補助を行うとともに、創業希望者への個別相談やホームページ等を通じて利用促進に努めました。

●久慈市創業支援事業計画に基づく支援

平成28年1月に国に認定された「久慈市創業支援事業計画」に基づき、創業希望者に対して関係機関と連携して、事業計画作成から創業に至るまで切れ目のない支援を行いました。久慈市が行った個別相談件数は3件であり、うち1件が創業となりました。

●久慈・ふるさと創造基金事業

創業希望者等に対し、久慈商工会議所が資金貸付する「久慈・ふるさと創造基金」に係る運営経費への補助金交付を行うとともに、新たな支援企業の掘り起しと制度周知に努めました。令和2年度の新規貸付は、1件、4,500千円となりました。

②中心市街地の活性化（商工観光課）

●空き店舗出店費補助事業

中心市街地の賑わい創出のため、中心市街地にある空き店舗を改装して出店する者に改装工事費の2分の1（上限50万円、新規出店の場合は25万円）の補助を2件実施しました。

●べっぴん夜市事業

市街地に賑わいを創出し個店の認知度アップを図るために開催した、べっぴん夜市（2回）及びべっぴん昼市（2回）事業に対して補助を実施し、延べ6,400人が参加しました。

●空き店舗対策チャレンジショップ事業

久慈商工会議所が、中心市街地の空き店舗を活用した新規出店者に家賃助成を行なう事業の経費（家賃の3分の1）の補助を5件実施しました。

③商工業の振興（商工観光課）

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて経営が悪化した事業者に対して支援を行いました。主な事業は以下のとおりです。

●新型コロナウイルス感染症対策資金保証料等補助金

岩手県が実施する中小企業経営安定資金及び新型コロナウイルス感染症対策資金について、償還金に係る利子及び保証料の補給を46件実施しました。

●中小企業者等店舗賃料補助金

対象期間において売上が前年同月比で15%以上50%未満減少した対象業種事業者に対し、店舗賃料の2分の1（最大30万円）の補助を229件実施しました。

●中小企業者緊急支援臨時給付金

対象期間において売上が前年同月比で15%以上減少した事業者を対象に、給付金20万円を588件支給しました。

④雇用機会の創出（企業立地港湾課）

●企業誘致活動の実施

拠点工業団地等への企業誘致を図るため、地域資源の掘り起し、企業訪問、産業人とのネットワークづくりに積極的に取り組みました。（市外企業訪問回数 7回）

●誘致企業等へのフォローアップ活動の実施

誘致企業等による新事業展開、事業高度化や新たな販路開拓による地域経済の拡大、雇用の場の創出を図ることを目的に、市が実施する各種支援制度の利用提案のほか、国・県等が実施する各種補助金等への申請支援や販路開拓に係るマッチング支援を行いました。（市内企業訪問回数 184回）

●高齢者の雇用促進

高齢者の雇用促進に取り組む久慈市シルバー人材センターに対して運営経費として10,000千円（前年度比300千円増）の助成を行いました。

⑤内発型産業の創出（企業立地港湾課）

●研究機関等との連携支援

岩手大学等と連携し、技術相談など事業者の課題解決のため、研究機関との連携促進を図りました。

【施策の評価】

①起業家に対する支援（企業立地港湾課）

令和2年度において「久慈市創業支援事業計画」に基づく久慈市が行った個別相談件数は3件であり、うち1件が創業となりました。「久慈・ふるさと創造基金」の新規活用事案は1件であり、引き続き、商工会議所、金融機関等の認定支援機関と連携し、きめ細やかなフォローアップに取り組めます。

②中心市街地の活性化（商工観光課）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、中心市街地への来街者が減少し、集客イベントなどでも中止せざるを得ない事業が出るなど、街なかの賑わい創出において大変困難な状況となりました。

やませ土風館・駅前複合施設の利用者数につきまして、令和2年度は駅前複合施設がオープンしたことにより、大幅な利用者数増を見込んでおりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値の869,000人に対して実績は725,237人となり、目標未達成となりました。

べっぴん夜市事業につきましても、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止や出店者数の減少などもあり、イベント入込数は前年度の8,800人に対して6,400人（27%減）となりました。

しかしながら、コロナ禍においても空き店舗出店費補助事業及び空き店舗対策チャレンジショップ事業によって商店街の新規店舗も増えており、中心市街地の活性化に寄与してもらえるものと期待しています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、やませ土風館、駅前複合施設、商店会等と連携したイベント事業等を実施し、中心市街地活性化に向けて取り組みます。

③商工業の振興（商工観光課）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、飲食業やサービス業をはじめ、多くの業種で売上が減少するなどの影響を受けており、市としても融資の利子補給、家賃補助、事業者向け給付金など様々な支援策を実施しました。

今後も新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、商工業の振興支援に努めます。

④雇用機会の創出（企業立地港湾課）

誘致企業等の従業員数は、1,710人となりました。誘致企業等以外の意欲のある事業者の中には、業容拡大・退職者補充のため求人を行っているものの、人が集まらない状況にあり働く人にとって魅力ある職場づくりを行うことが喫緊の課題となっています。

市内事業者の魅力向上や創業のためには、新事業展開、事業高度化、新たな販路開拓や地域経済の拡大が不可欠であり、市では、これらに取り組む事業者を支援するため令和2年度は184回のフォローアップ訪問を行いました。この訪問を通じ、企業が抱える課題の掘り起こし、国・県が実施する各種補助金等への申請支援や販路拡大に係るマッチング支援等を行いました。

⑤内発型産業の創出（企業立地港湾課）

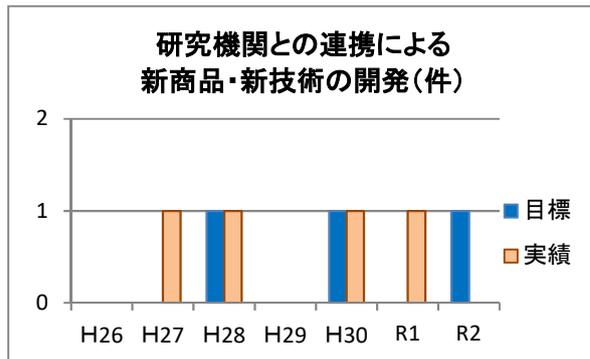
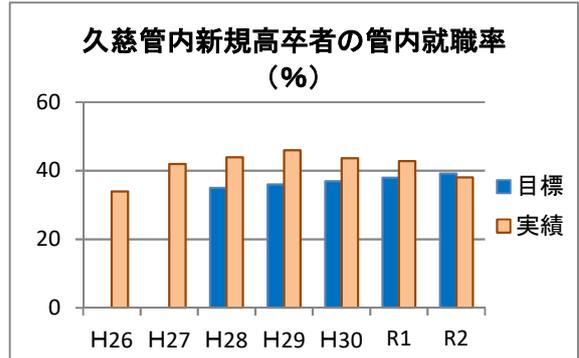
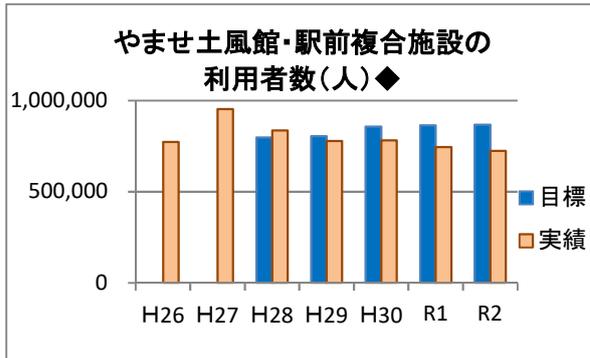
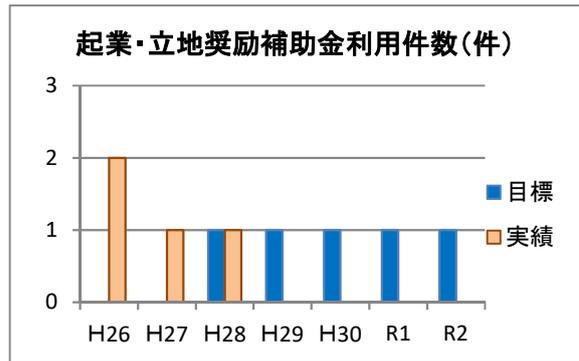
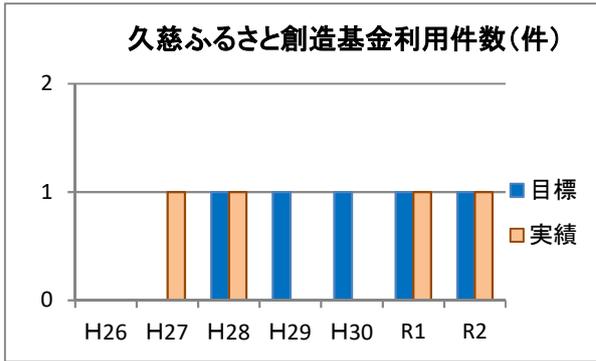
研究開発等連携促進事業補助制度、販路拡大支援事業補助制度の活用は0件でした。

【指標の状況（詳細）】

◆：新型コロナウイルス感染症の影響が大きい指標

指標（単位）	基準値	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	(H26)							
久慈ふるさと創造基金利用件数（件）	0	目標		1	1	1	1	1
		実績	1	1	0	0	1	1
		達成率		100%	0%	0%	100%	100%
起業・立地奨励補助金利用件数（件）	2	目標		1	1	1	1	1
		実績	1	1	0	0	0	0
		達成率		100%	0%	0%	0%	0%
やませ土風館・駅前複合施設の利用者数（人）◆	773,659	目標		799,000	805,000	858,000	864,000	869,000
		実績	953,307	836,701	778,744	782,557	745,534	725,237
		達成率		105%	97%	91%	86%	83.5%
久慈管内新規高卒者の管内就職率（%）	34.0	目標		35.0	36.0	37.0	38.0	39.2
		実績	42.0	43.9	46.0	43.7	42.8	38.1
		達成率		125%	128%	118%	113%	97%
研究機関との連携による新商品・新技術の開発（件）	0	目標		1	0	1	0	1
		実績	1	1	0	1	1	0
		達成率		100%	0%	100%	100%	0%

※やませ土風館・駅前複合施設の利用者数のH26の欄の数値は、H24の数値を使用。



第4章 基礎戦略3

資源を生かす魅力とやりがいのある産業のまちづくり

第5節 観光の振興

【令和2年度の取組】

①総合産業としての観光の推進（商工観光課・産業建設課）

新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な誘客が困難であり、観光産業に携わる事業者向け支援策を実施しました。

②お祭り・イベントの充実（商工観光課・産業建設課）

久慈秋まつりをはじめとする各イベントが中止になりましたが、やませ土風館での久慈秋まつりお囃子実演、市外イベントへの出展等により当市のPRを行いました。

③観光資源・施設の整備と観光ルート化の推進（商工観光課・産業建設課）

観光施設の維持管理を行うとともに、新山根温泉べっぴんの湯の再開に向け源泉の掘削業務、施設改修設計業務を行いました。また、二次交通対策として実施するお得なタクシープラン事業に対し補助を行いました。

④情報発信の強化（商工観光課）

インターネット、SNS、パンフレット等を用いて情報発信を行いました。また、パンフレットはサイズを拡大し写真を見やすく、また若年層に訴求するデザインとしました。

令和3年3月にはYOMUNOSUに女優のんさんの制作した絵画を展示し、その絵画を題材としたオリジナルポストカードを制作しファンをはじめ多くの人に情報発信を行いました。

ロケツーリズムについては、テレビ・映画のロケ52件を誘致しました。

【施策の評価】

①総合産業としての観光の推進（商工観光課・産業建設課）

特産品等取扱業者・宿泊事業者経営状況の聞き取りなどにより、市内関係者と例年以上の密接なコミュニケーションを図り新たな補助制度の創設につなげることができました。

②お祭り・イベントの充実（商工観光課・産業建設課）

例年とおりのイベントの実施は困難でしたが、市民を対象とした小規模なイベントは実施することができました。また、女優のんさんの絵画除幕式はマスメディアのみ参加していただき、情報発信をすることでポストコロナ期に向けた誘客策としました。

③観光資源・施設の整備と観光ルート化の推進（商工観光課・産業建設課）

新山根温泉の再開に向け源泉の掘削を行い、以前の鉱泉と類似した成分の鉱泉の掘削に成功しました。

二次交通対策のタクシープランは目標値には届きませんが、観光客の足となることができました。令和3年度はタクシープランの内容の充実を図ります。

④情報発信の強化（商工観光課）

北三陸「あまちゃん」観光推進協議会」のSNSフォロワー数は1,862件から2,245件へ増加しました。

ロケツーリズム事業では、ロケ受入れ52件であり、映画ロケの誘致も成功し例年以上の受入れ実績となりました。令和3年度の映画公開に併せ、積極的なプロモーション活動を行います。

【指標の状況（詳細）】

◆：新型コロナウイルス感染症の影響が大きい指標

指標（単位）	基準値 (H26)	区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2
	観光客アンケートの満足度（％）		—	—	54	81 ※	56 ※	58 ※
			達成率	151%	—	—	—	—
秋まつり観光客数(人)◆	109,000	目標	—	110,000	115,000	120,000	125,000	130,000
		実績	80,600	未実施	105,300	75,000	101,500	未実施
		達成率	—	—	92%	63%	81%	—
案内看板の設置数（基） ※再掲	2	目標	—	5	8	11	14	17
		実績	2	6	12	21	22	22
		達成率	120%	150%	150%	191%	157%	129%

※観光客アンケートの満足度については、三陸DMOセンターのマーケティング調査結果によるが

H29以降は三陸沿岸地域全体のデータのみ公表されていることから、実績値を未掲載とした。

※H30の秋まつりは雨天により中日延期により、観光客数が大幅に減少した。

